

令和二年度入学式 式 辞

只今、入学を許可いたしました320名の新入生の皆さん、入学おめでとう。

皆さんが入学を果たした、この仙台市立仙台商業高等学校は、112年の歴史のある仙台商業高等学校と90年の歴史のある仙台女子商業高等学校が統合し、平成21年4月に仙台市立仙台商業高等学校として開校し、本年度で12年目を迎えます。両校の伝統を継承し、時代の要請に対応した商業教育を推進し、県内外に優秀な人材を数多く送り出しております。充実した施設設備のもと、仙商生は、日々の学習や部活動に、一生懸命取り組んでおります。

本校は、「自律」、「友愛」、「創造」の校訓のもと、生徒の自主性・主体性を重んじ、一人ひとりの個性を伸ばしながら、「社会人として自立できる人間づくり」に取り組んできています。皆さんも、一日も早く本校の校風になれ、先輩が築き上げた伝統の継承者になると同時に、社会の状況の変化に、的確に対応した変革を行う、新たな伝統の創造者として、充実した高校生活を過ごされることを期待しています。

今日から仙台市立仙台商業高校の生徒、仙商生としてスタートを切る新入生の皆さんは、大きな期待と、その一方で少しの不安を胸に、この入学式に臨んでいることと思います。これから始まる高校生活を充実したものとするために、本校の商業を学ぶ精神や教育目標をしっかりと胸に刻み、高校生活の新たな一步を踏み出して欲しいと思います。

入学に際し、皆さんに、仙商生として、有意義な高校生活を送るための心構えを、二つ述べておきます。

まず、第一に、「高校で何をなすべきか。今から始まる高校生活の目標を明確にすること」であります。そして、その「目標達成の為に継続して努力すること」です。努力をした人がすべて成功を手にするわけではありません。しかし、成功した人は必ず継続して努力をした人です。継続して努力をすることが目標を達成する第一歩となります。我々教職員も一丸となって教育活動を展開して参りますが、皆さんも新たなる決意で「明確な目標を立てて目標達成の為にたゆまず励む」そういった志を持ってほしいと思います。

二つめは、「人間関係を学び相手を思いやる心を育てること」であります。学校には、同級生という同じ年齢の人、先輩後輩という年齢が異なる人、多くの先生という大人の人など、多くの方がいます。学校は、多くの人間関係を学ぶことができる場でもあるわけです。ここで、皆さんに忘れないでほしいことは、人間関係の結び方を勉強するのですから、相手のことを心から受け入れることが大切です。自分を含めて、人は失敗するものです。そんな時は、人の失敗を責めないで、お互いに暖かく受け止めてください。これから、勇気を持って、多くの出会いを楽しんでください。多くの出会いと、多くの失敗のなかで、他人の気持ちを理解できる感性、思いやりの心を育ててほしいと思います。皆さんが、これからの3年間の中で、自分の大切さと他人の大切さを認め、協力して生きることができる人間になってほしいと願っています。

以上、「高校生活に目標を持ち継続して努力すること」と「人間関係を学び相手を思いやる心を育てること」を中心に、高校生活の心構えとしてお話しをいたしました。

さて、パナソニックの創業者である松下幸之助氏の言葉に「万物皆我が師」という言葉があります。学ぶ心があれば、雨にじっと堪えている石や、どんなに踏まれても負けずに育っている野の草花からも学ぶことはあるはずです。学ぶ心さえあれば、どんなことから、どんな人からも、謙虚に素直に学ぶことができます。すべてに学ぶ心があって、はじめて新しい知恵が生まれてくるのです。学ぶ心こそが学びの第一歩なのです。皆さんには、学ぶ心をしっかりと持ち、学ぶことにより知識をたくわえるとともに人間的な魅力を培うことを心から期待しています。

最後になりますが、新型コロナウイルスのため、この一年、様々な制約や制限、我慢をしなければならぬことが多々予想されます。心が折れそうな時があるかもしれません。嫌になってしまうことがあるかもしれません。そんな時でも、仲間と励まし合い、先生に相談するなど、手を取り合って、仙商生としての誇りを忘れずに、みんなで頑張っていきましょう。

新入生の皆さんが初心を忘れることなく、本校での3年間において、大いに成長し、活躍されることを心から祈念し、式辞といたします。

令和2年6月1日

仙台市立仙台商業高等学校 校長 長谷川 律男